

第 32 回 コンパス薬局藤沢 スキルアップ勉強会

2016.10.04 細川 亜希子

SGLT2 阻害剤『カナグル錠 100mg』

(株) 田辺三菱製薬さん

場所：コンパス薬局藤沢

参加者：沢先生、職員さん、熊山ともみ、空田さやか、遠藤由莉、細川亜希子

今や世界の 7 割で糖尿病治療に用いられている SGLT2 阻害剤。体内の過剰な糖を体外に排泄することで高血糖症状を改善する、という機序で効果を発揮する。その中でも、今回は国内で研究・製造されたカナグル 100mg について、使用方法と注意点を学んだ。

<効能・効果>

2 型糖尿病

腎臓での SGLT2 阻害による尿等排泄促進効果に加え、小腸での SGLT1 阻害によるグルコース吸収遅延に關与することで急な血糖上昇を緩和する。

注 1) 1 型糖尿病の患者には使用しないこと

注 2) 高度腎機能障害患者、または透析中の末期腎機能障害患者では本剤の効果が期待できないため投与しないこと

注 3) 中等度腎機能障害患者では投与の必要性を慎重に判断すること

<用法・用量>

通常、成人にはカナグリフロジンとして 100mg を 1 日 1 回朝食前または朝食後に経口投与する。

<副作用>

無症候性低血糖、低血糖症、頻尿、血中ケトン体増加、便秘等

(他尿や頻尿の副作用に関しては継続服用で収まってくるため、中止例には至らないことが多い)

重大な副作用として、低血糖・脱水・ケトアシドーシス・腎盂腎炎・敗血症

骨格筋や心筋の SGLT1 には影響が少なく、副作用はおきにくい。

<考察>

アジア人の生活データでは朝の血糖上昇幅が特に大きいのが特徴だが、カナグルは朝

食前（後）の服用で、必要時に効果のピークが合うために効果効率がよい上、用量が単一（1日1回100mg1錠）で継続のコントロールが可能であることから、患者さんにとって服用ミスもおきにくく負担が少ないと考えられる。

本剤は利尿効果を利用しての糖排泄を行うため、体液量減少・脱水の副作用が考えられるが、高齢者では脱水症状の認知が遅れることがあるので、特に注意が必要であり、投薬時の細かい体調確認が、患者さんの副作用軽減に役立つと考えられる。

DPP4阻害剤との併用も可能であり、併用によるコントロールもしやすい薬となっている。